

## <堀川第一橋>

### ◇諸元等

所在地：京都市上京区役人町、東橋詰町

道路名：一般道中立売通

河川名：普通河川堀川

建設年：1873 年(明治 6 年)

形式：石造アーチ橋

橋長：14 m

幅員：8.2 m



写真-1 橋面より(石畳と親柱・石造高欄)

### ◇本橋の歴史

- ・ 平安京造営時からの歴史を誇る堀川に、江戸幕府の手で中立売橋(現在の堀川第一橋)が架けられたのは 1626 年(寛永 3 年)のことである。中立売橋は京都御所と二条城を結ぶ要路にあり、洛中洛外図屏風には後水尾天皇が二条城へ向かうため、この橋を渡る様子が描かれている。当時の中立売橋は擬宝珠高欄付の木橋であった。
- ・ このように幕府が建設・管理する橋を公儀橋といい、京都では 100 橋を超えていたのに対し、大坂では公儀橋は少なく、町人が管理する町橋が 200 橋を超えていたと言われている。・ 明治時代に入り、京都府は木製の公儀橋を永久橋に架け替える事業に着手し、中立売橋も石造アーチ橋に架け替えられたが、堀川で最初の橋だったため堀川第一橋と命名された。ちなみに、下立売通の橋が 1874 年(明治 7 年)に架け替えられ、堀川第二橋となっている。
- ・ 堀川第一橋は公儀橋から永久橋に架け替えられた現存最古の橋であり、親柱や高欄など今も架橋当時の姿をとどめている。石畳であった橋面は、昭和 30 年代にアスファルト舗装に改築されたが、平成になって石畳に戻され、架橋当時の姿に近づいている。

### ◇本橋の特徴

- ・ 本橋の構造上の特徴は、アーチ形状が真円形(内径 5.8m)であり、かつ世界的にも稀な全円形(アーチが川底まで伸び完全円形)となっている点にある。



写真-2 遊歩道よりアーチを望む

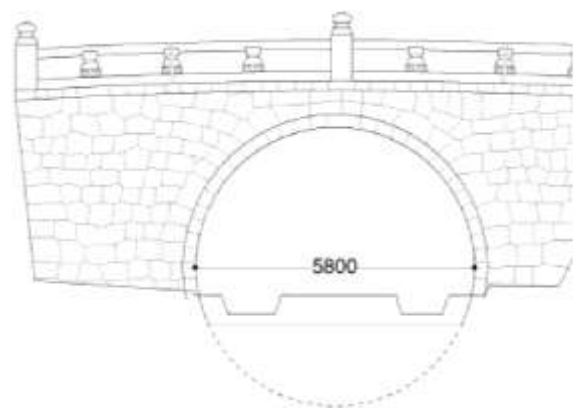


図-1 側面図

・ この橋には伝統的な石工の技術が生かされており、親柱の刻銘によれば、この工事には江戸時代以来石工が住んだ愛宕郡白川村(現・京都市左京区白川)の石工が関わったことが明らかになっている。また、壁石には当時豊国神社が建てられていた東山大仏(方広寺)跡の蓮台の石が転用されたと伝えられている。

・ なお、京都市内には同時期に施工された石造アーチ橋として、堀川第二橋のほか、東山区本町十八丁目にある伏水街道第三橋、伏見区深草直違橋北一丁目にある伏水街道第四橋が現存している。このうち、伏水街道第四橋は小規模ながらも貴重な真円・全円形アーチの姿を今に残している。

・ 全円形アーチ橋のルーツとして、東山区東山五条の本願寺大谷廟入り口に架かる円通橋が指摘されている。円通橋は 1856 年(安政 3 年)築造、石造二連式真円・全円形アーチ橋である。この工事を請け負ったのは大坂の石屋源助、さらに本願寺に残された文書からここでも白川村の石工(太郎衛門)が携わったことがわかっている。

#### ◇本橋の文化的価値

・ 本橋の歴史で述べた通り、本橋は公儀橋を架け替えた永久橋としては現存最古のものであり、かつ架橋当時の姿を現在まで残しており、歴史的・文化的価値の高い橋である。

・ そのため、2012 年(平成 24 年)には土木学会選奨土木遺産に認定されており、また 2017 年(平成 29 年)には京都市指定有形文化財に認定されている。



写真-3 土木学会選奨土木遺産



写真-4 京都市指定有形文化財 (拡大図)

#### ◇本橋の周辺環境

- ・ 半世紀近く前にコンクリートで底張りされ、単なる排水路と化していた堀川に、京都市水辺環境事業によって清流が復活し、今では水辺の遊歩道から堀川第一橋の美しさを堪能できる。
- ・ 近くには、京都御所はもちろん、1587 年(天正 15 年)に豊臣秀吉が築いた城郭・聚楽第の跡地を示す石碑や、平安時代の陰陽師・安倍晴明をまつる晴明神社など、名所旧跡も数多い。

#### ◇参考文献

- ・ 京都市建設局：京(みやこ)の道しるべ、第 11 号、2017 年 3 月  
(<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/cmsfiles/contents/0000149/149842/hashishirubell.pdf>)
- ・ 京阪電鉄(株)：京阪沿線の名橋を渡る、シリーズ 17、中立売橋  
(<https://www.okeihan.net/navi/bridge/bridge17.php>)
- ・ ウィキペディア(Wikipedia)：堀川第一橋(<https://ja.wikipedia.org/wiki/堀川第一橋>)